

令和7年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果(花園中学校)

平均正答率

1 自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

教科	国語			数学			英語	
学年	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中2	中3
花園中	下回った	下回った	下回った	下回った	下回った	上回った	下回った	上回った
埼玉県	62.5	54.6	57.0	52.0	51.5	56.7	60.2	51.5

2 自校の学力レベルと県の学力レベル

教科	国語			数学			英語	
学年	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中2	中3
花園中	7-B	7-A	8-A	6-B	7-C	8-B	8-B	10-C
埼玉県	8-C	8-C	8-A	6-A	7-A	8-B	9-C	10-C

3 自校の学力の伸びと県の学力の伸び

教科	国語			数学			英語	
学年	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中2	中3
花園中		2	2		3	1		3
埼玉県	3	1	2	1	4	2		3

児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた値(単位 %)

	質 問 事 項	中1		中2		中3	
		花園中	埼玉県	花園中	埼玉県	花園中	埼玉県
深谷の子6つの誓い	・将来の夢や目標を持っている	84.5	83.2	70.6	72.6	78.8	70.3
	・難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している	77.5	72.5	73.5	68.9	63.7	67.0
	・誰に対しても進んで挨拶をすることができている	87.6	88.1	86.3	88.1	91.2	87.5
	・脱いだはき物のかかとをそろえることができている	88.4	89.6	89.2	91.6	98.2	93.1
	・相手の気持ちやその場の状況を考え、優しい言葉遣いができている	89.1	89.5	87.3	90.9	98.2	90.8
	・勉強するときは、最初に計画を立ててから始める	65.1	49.1	45.1	47.8	48.7	47.3
	・休日などの学校が休みの日に1日当たり1時間以上勉強している(塾等を含む)	65.1	63.0	70.6	61.6	69.0	69.1
学習等への関心	・授業で学んだことを、日常の生活に生かせると感じた	76.0	74.2	52.9	57.0	64.6	63.3
	・将来どの学校まで進みたいと思いますか【大学以上】	34.1	46.2	41.2	50.8	44.3	58.5
	・県や地域の歴史や自然に関心をもっている	75.2	57.5	54.9	47.4	50.4	41.3
授業について	・授業を通して学んだ内容についてさらに詳しく知りたい、学びたいと思った	69.8	68.3	47.1	61.2	61.1	64.2
	・課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをもてるようになった	79.1	84.6	73.5	79.5	86.7	84.0
	・国語や数学、英語の授業で、週1～2回程度以上タブレットを使っていた(3項目の平均)	70.2	60.5	28.9	37.5	48.1	42.2
	・昨年度、週2回以上、タブレットを家に持ち帰って、宿題含めて学習に利用した	33.3	26.0	24.5	13.5	17.7	13.8
その他	・学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれた	98.4	95.6	97.1	96.3	96.5	95.8
	・学校の友達らは自分のよいところを認めてくれた	91.5	93.7	97.1	94.3	91.2	94.6
	・学級での生活は楽しい	96.9	93.1	94.1	94.0	97.3	92.8

【質問紙分析】

- ・中3において「将来の夢や目標を持っている」と回答した割合が県と比べて高いのは、本校の特色ある「立志式」での取組みにおいて、将来について真剣に考えた結果であると考えられる。
- ・「学校の先生は自分の良いところを認めてくれた」と回答した生徒の割合が、県と比べて高いことが明らかとなった。この結果は、教師が日常的に生徒を丁寧に観察し、温かい言葉かけや適切な関わりを行っていることの表れであると考えられる。これらの取組が、生徒に「自分は大切にされている」という安心感や自己肯定感を育てているものと思われる。また、「学級での生活が楽しい」と回答した生徒の割合も高く、学級や学校全体における人間関係が良好であることが示唆された。

伸びが見られた学級・教科での取組

【国語】

- ・2、3年生の伸びの割合がともに2であった。特に3年生は学力レベルが県と同じ8-Aであった。意見交換を効果的に行い、思考・判断・表現の力を伸ばすように指導している。
- ・各学年漢字の小テストを用いて知識・技能の定着を図っている。ICTを用いて書く活動を行うことで表現の工夫の共有を行っている。
- ・振り返りカードを活用して自分の学習の進み具合を確認し、学習内容の定着を図っている。

【数学】

- ・県の平均正答率を上回った3年生の学級では、指導内容を教えた後、類題を真似て解かせ、その後、生徒の理解度によって基本的な問題・発展的な問題を事前に用意し個別に与えるという流れを徹底している。
- ・班でのグループワークを活用し、班のメンバー同士で進度の確認をさせあうことで、教員が1人1人の進捗の確認をしなくても生徒同士で学び合いが起こるように工夫している。

【英語】

- ・基本的な語彙や文法・語法について知識が身についているかを測る問題での正答率が比較的高かった。また、領域別では「読むこと」がほかの領域に比べ正答率が高く、身近な事柄に関する内容や日常的な話題についての情報の読み取りの正答率が高かった。

毎授業で単語テストを繰り返し行うことで、授業だけでなく長文読解のための語彙力を身に付けられるよう工夫した。

- ・長文読解の英問英答の解き方を教科書のQ&Aを通じて繰り返し解説した。またグループワークを活用し、各自の答えとほかの人と比べたり、わからないところを教えあうなど学び合いを促した。

一人一人をより伸ばすための取組

- ・授業の中で生徒が何をすればよいかわからない時間をなくすため、発問や活動の工夫を進める。授業での導入段階で学習の見通しを持たせることで、生徒一人ひとりが主体的に学びに取り組めるようにしていく。
- ・本校の学校研究課題である「魅力ある学校づくり ～学校風土、学級風土の醸成～」を通して学習環境を改善し、生徒が楽しく学べる雰囲気高めつつ、一人ひとりに最適な指導・支援を行い、学力向上を図っていく。